

H18.5.18 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成18年5月18日(木) 15時00分～17時30分

議事概要：

表 H18.5.18 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の経緯について	・過去の検討経緯について確認した。	・特になし	・特になし
2.野外実験計画について	・野外実験の概要について説明した。	・実験の評価についてはネコギギの「いる」「いない」のみではなく、構造物をどの様に利用していたかを評価することが重要である。	・事務局：繁殖期に構造物の利用状況確認調査を実施し、繁殖横穴としての利用があるかどうか確認する。
		・今回の実験の効果を科学的に説明可能なものとする必要がある。	・事務局：出水の影響は、流出に関しては水理解析で施工前に検討済みである。土砂による埋没については、出水後に潜水目視により行う。
		・出水が構造物に与える影響はどの様にチェックするのか。	・事務局：設置後に経験した出水より流量の多い出水が出た場合にはチェックを行った方がよい。
		・それまでに経験した出水より流量の多い出水が出た場合にはチェックを行った方がよい。	・事務局：環境改善の構造物が埋まったり壊れたりした場合の対応はどのように考えているか。
2.平成17年度の野外実験の報告について	・環境改善の施工結果及び直後調査結果について報告した。	・横穴数の現地での計数手法・評価手法について、疑問が残る。評価手法を確立しておく必要がある。	・事務局：事前調査との比較が必要なため、今年度の事後調査では従来手法の計数・評価を行う。また、今後、横穴を「河床の空隙」として、新たな基準を設けて計数・評価を行う。なお、それらの手法は、「ハビタット解析のための調査計画」で検討し、策定する。
3.平成18年の野外実験について	・平成18年度の野外実験計画について説明した。	・「定着」の評価をどの様に判断するかが重要である。	・事務局：放流後、一定期間が経過した段階における放流個体の生息を持って「定着」と判断する。
		・放流した個体の継続的な追跡調査を行って確認することが妥当と考える。	・事務局：観察の時期は「放流直後」、「越冬後」、「繁殖期」、「1年後」を予定する。
4.野外実験淵の追加について	・支川における野外実験淵の追加について提案した。	・ネコギギの生息には河床勾配と平面形状が効いている可能性がある。	・事務局：豊川本川およびネコギギの生息する豊川支川において、以下について生息条件の調査・解析を行う。
		・ネコギギが生息している豊川支川や他の河川のデータも参照して検討すること。	

			ほぼ一蛇行区間を単位とした「リーチスケール」 生息場である淵を単位とした「ハビタットスケール」 淵の中の微細な環境を単位とした「マイクロハビタットスケール」
5.今後の調査・検討計画について	・今後の調査予定、検討計画について説明を行った。	・実験が予定通りに進まない場合も想定される。その場合のシミュレーションを行い、対応シナリオを予め策定しておくべきである。	・事務局：実験の進捗にあわせて、問題が発生した場合にも順応的な対応ができるように対応シナリオを策定する。
		・実験中は速やかな意志決定が必要となる。問題が発生したときにはすぐに魚類検討会が開催されるようにして欲しい。	・事務局：問題が発生した場合に、速やかに魚類検討会委員と協議する連絡体制を策定する。